



子どもたちが新しい時代を  
「生き抜く」ための新規事業

学校教育課 教務係

町づくりの原動力は、人材の育成であり、それを担うのは教育であるという基本的な考えに立ち、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材を育成します。

そのために、本年度は2つの新規事業を立ち上げました。

【桂川町給付型奨学金】

桂川町在住の子ども達が、高等学校卒業後に、経済的な理由により大学や専門学校等への進学を諦めることのないよう、返済不要の給付型奨学金制度を設けました。本年度は、厳正な審査を経て第一期生として4名の学生が桂川町奨学生として認定されました。

今まで以上に学業に邁進し、将来、桂川町を担う人材として育ってくれることを願っています。令和8年度の募集については、まもなくお知らせいたします。

【桂川町中学生海外派遣事業】

今後ますますグローバル化の進展が予測される今日、国際的な視野をもつ人材の育成や英語を用いたコミュニケーション能力の育成は急務です。

そこで、福岡県市町村振興会の補助を受け、8月18日(月)から23日(土)の5泊6日の日程で、フィリピンにあるマニラ中央大学の中等部门を訪れ授業交流や文化交流を行いました。

学校訪問では、大学の学長をはじめ、全職員・全校生徒をあげての熱烈な歓迎を受けました。

フィリピンと日本の間には、過去の悲しい歴史がありました。それを乗り越え新たな友情を築くことができました。また、休日には戦争遺産や世界遺産を訪れたり、雄大な自然を味わったりしました。予算の都合もあり応募者全員を派遣することはできませんでしたが、派遣された生徒たちは一回り大きく成長したように思います。

来る10月22日(水)18時30分より、住民センターにおいて報告会を開催します。ご興味のある方は、ぜひお越しください。

子どもの成長を切れ目なく支えるために「架け橋期」の教育活動の充実をめざして

桂川幼稚園 園長 城石俊弘

2学期が始まり、5歳児にとって小学校生活が少しずつ近づいていきます。年長クラスの1年間に大切なことは、小学校の児童たちに憧れの気持ちをもったり、小学校生活に期待する機会を設けたりすることです。

また、5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期とされ、「架け橋期」と言われています。

本園では、この架け橋期における取組の一つに、園児と小学生の交流活動をとり入れています。

○桂川東小学校の1年生と

さつま芋の栽培活動を通じた交流

○桂川小学校5年生と

4回の給食体験・交流

○桂川小学校1年生の生活科「秋の宝物ランド」における交流

このような交流により、園児は小学校に興味をもち、入学への不安を少なくすることにもつながります。また、校内では一番年下である1年生にとっても、園児と関わる

ことで「お兄さん」「お姉さん」という自覚をもち、自信にもなります。

現在、11月に桂川小学校で行う4回の給食体験・交流についても、一緒に給食を食べるだけでなく、教えてもらいながら準備や後片付けもします。また、学校探検や質問タイムを設ける等の工夫もしています。

このような工夫が小学校を知り、親しみや安心感を持つことにつながるとともに、給食に対しても不安や期待する気持ちが生まれ、「嫌いなものでも食べてみよう」という意欲をもつようになります。また、5年生にとつては、まもなく最上級生になり、新一年生のお世話をする立場になるという意識が育ちます。

交流活動の前後には、両教員間でそれぞれのねらいや活動の内容、成果や課題について話し合うことで連携も深まり、架け橋期におけるカリキュラムの改善にもつながる、とても意義のあるものとなっています。

幼少の交流は、園児や小学生にとつて笑顔あふれるとても楽しみな時間です。これからも子どもの豊かな育ちのために、小学校と連携して架け橋期のカリキュラムの充実を図りたいと考えています。